

## 岐阜の成長企業トップインタビュー



中日本カプセル社長  
山中利恭氏

日本は高齢化が進み、健康に対する意識がより高まっている。ただし健康食品市場は成熟、新規参入するメーカーも増えており、製品開発競争は激化している。中日本カプセルは1990年創業と後発ながら、高機能性カプセルなどの独自製品、マーケティングから機能表示食品の届け出業務まで支援するきめ細かいOEM相手先ブランド生産で成長を続けている。山中利恭社長に健康食品市場の将来像や差別化への取り組みを聞いた。

# 若手が活躍できる会社に

「日本の産業界の課題とは。」「新興国が台頭する一方、日本は人口減少で市場が縮小し、働き手も不足している。先人が築いた技術や品質、管理は高レベルだが、それ以上の付加価値ある商品開発や製造の工

夫が必要。世界競争力を高め、新興国などに進出するべきだ。」「岐阜県の産業界の課題とは。」「先進的な企業に加えて、歴史もあり、当社のような健康食品の原料開発や受託製造の企業も多岐にわたる。岐阜は行政や大学、金融機関などの支援も手厚い。相談できる環境の中で新たな健康食品が開発できる。」「健康食品市場の将来像

## 多様化する市場で挑戦

「日本の健康食品市場は1990-2010年の約20年で大きく成長した。その後は成熟し、カプセルや錠剤を主流に、水なしで手軽に摂取できる顆粒やグミ、ゼリーなど製品の形態が多様化している。今後はユーザーの好みがさらに多様化し、対応できる技術力が問われる。」「御社が力を入れておられるのは海外展開。アジアは層層層を中心に健康食品市場が伸びており、現地メーカーが求める製品を岐阜県でOEM生産している。ベトナムではハノイに駐在員事務所があり、今年中に現地法人化する。本社にベトナム人3人、中国人1人の社員がいてベトナムや台湾、香港の展示会などに貢献している。」「今後目指す方向としては、健康社会に貢献するという理念のもと、多様化する健康食品業界で挑戦し、さまざまな人がそれぞれに貢献しやすいサプレメントを開発、製造する。それにより人々の健康と社会に貢献していく。」「SDGsも重視している。例えばソフトチン残さを肥料などにし廃棄物を削減中。若手が活躍できる仕組みづくりも進めている。開発は知財、品質保証は表示などの検定試験に挑戦し、営業は英会話も学んでいる。毎年社内コンテストで新規事業案を募り、全社員が会社の将来を考える機会も作っている。」「

# 日刊

THE NIKKAN

# 工業

KOGYO SHIMBUN

# 新聞

7月28日 金曜日

2023年(令和5年)